

『ムラ』の風景をつくる

～農村文化に支えられる、いやしの里の豊かな暮らしの風景～

ゆふいん建築・環境デザインガイドブック

増補改訂版



2011年 3月

ゆふいん建築・環境デザイン協議会
由布市

増補改訂版の発刊にあたって

この「『ムラ』の風景をつくる ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」は、平成12年3月に由布院温泉観光協会、旅館組合、商工会、地区住民の方々や湯布院町役場で「ゆふいん建築・環境デザイン協議会」を立ち上げ、濃密な議論と膨大な作業を重ね発行しました。

このガイドブックには、由布院盆地で「ものをつくる」にあたっての「原則」や「心得」が示されています。発刊以来、10年以上が経過しましたが、ここに「原則」や「心得」として示されている由布院の風景や環境に対する基本的な考え方は、今でも変わるものではなく、これからこのガイドブックは、由布院盆地における景観形成の基本方針として、大切に守られていく必要があります。しかし、このガイドブックが策定されて以降の10余年を振り返れば、せっかく発行されたにもかかわらず、このガイドブックをどのように活用し、広めていくかという事については、それぞれの関係者の方々の個人の善意と努力に委ねられてきていました。その結果として、必ずしもこのガイドブックの効果が充分にあらわれ、現実的な実行力が満身に発揮できなかったところもあります。

こうした状況の中で、平成20年度には由布市景観条例が施行され、平成22年度に由布市における屋外広告物条例の設置基準の見直しが行なわれるなど、由布市による景観法や屋外広告物法に基づく取り組みが進められてきました。さらに平成22年度からは、由布院盆地景観計画の検討も進められています。また近年では、屋外広告物（看板など）の設置が急増するなど、社会状況の変化に対応してガイドブックの内容をさらに充実する必要も高まってきています。

こうした背景から、この度「ゆふいん建築・環境デザイン協議会」を改めて組織しなおし、このガイドブックの増補改訂版を発行する事に致しました。増補改訂版を発行するにあたっては、二つ

の課題（①ガイドブックの実効性のある運用②屋外広告物に関する事項の追加）に焦点を絞って議論を積み重ね、次のような改訂を行ないました。

ひとつは、このガイドブックを実効性のあるものとするため、由布院盆地景観計画の「景観形成方針」として位置づけることが検討されていることから、体系図や写真の一部変更を行なうなど、読み手が活用しやすい構成としました。ガイドブックが景観形成方針として位置づけられた後は、このガイドブックの内容が、由布院盆地における建築物や工作物、屋外広告物のあり方を示す基本方針として、景観法に基づいて運用されることになります。

ふたつめには、このガイドブックに屋外広告物（看板等）に関する事項を追加しました。前回のガイドブックの策定と同様に、盆地内の良い事例を収集し、それを分析することによって、良い屋外広告物に向けた「原則」と「心得」を導き出しました。

さらに、前回のガイドブックを尊重、踏襲することを原則にしながら、構成、写真、テキストの見直しについても必要最低限の改訂を行ないました。

今後、このガイドブックを由布市の景観条例や、由布市における屋外広告物条例の運用において活用したいと考えておりますが、それだけではなく、由布院盆地の風景を守っていくためには、より多くの方々にこのガイドブックを活用していただき、広く利用されることが望まれます。湯布院町潤いのある町づくり条例における活用、観光協会や旅館組合、商工会等の民間の事業者の皆様による自主的な活用など、官民双方における取り組みが蓄積されることにより、「ゆふいんとしてあるべき風景のイメージ」が地域の住民全体において共有され、由布院盆地における自発的で広がりのある取り組みに繋がっていくことを期待します。

『ムラ』の風景をつくる

～農村文化に支えられる、いやしの里の豊かな暮らしの風景～

ゆふいん建築・環境デザインガイドブック

増補改訂版

目次

増補改訂版の発刊にあたって	p.01
いま、なぜガイドブックが必要なのでしょう	p.04
1. ゆふいんのまち並みは、どこへ行こうとしているのでしょう	p.04
2. 「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」のねらいと位置づけ	p.04
3. デザインガイドブックの構成	p.06
I. 「ゆふいんらしい」風景とは	p.08
II. ものを創るにあたっての心得	p.09
「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック体系図」	p.10
III. 建築に関するデザインガイド	p.13
実際に建築する時のガイドブックの使い方	p.14
小ぢんまりとしたたたずまいをつくる	p.17
心得1 盆地の程良い大きさを大切に、小振りなつくりとする	p.18
心得2 人の尺度を中心に、細やかな配慮を心がける	p.22
心得3 周囲との調和を大切に、控えめにつくる	p.26
内と外との係わり合いを大切にしていく	p.29
心得4 通りに対して強く閉ざさないつくり方とする	p.30
心得5 豊かで多様な自然を、暮らしの中に取り込む工夫をする	p.34
心得6 まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく	p.38

自然な風合いを大切にしていく	p.41
心得 7 ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする	p.42
心得 8 豊かな杜の緑を引き入れ、敷地の周りを囲い込む	p.46
心得 9 安全で安心な、かたちや素材を大切にする	p.49
 IV. 看板に関するデザインガイド	p.53
実際に看板を設置する時のガイドブックの使い方	p.54
心得 1 盆地の程良い大きさを大切にし、小振りがつくりとする	p.56
心得 2 人の尺度を中心に、細やかな配慮を心がける	p.58
心得 3 周囲との調和を大切にし、控えめにつくる	p.62
心得 4 通りに対して強く閉ざさないつくり方とする	p.66
心得 6 まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく	p.67
心得 7 ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする	p.68

いま、なぜガイドブックが必要なのでしょう…

1. ゆふいんのまち並みは、どこへ行こうとしているのでしょうか…

いま、湯布院（特に由布院盆地内）では多種多様なスタイルの建築物による「デザインの氾濫」と、プレハブ住宅等による「地域性の喪失」が見られます。

1970年代から現在までの由布院盆地における開発されたエリアの変化を見ると、農地や山すそ部、さらには、危険性の高い急斜面の山中まで、この40年間で開発が大きく広がっていることがわかります。そして、いつの間にかよその観光地などで見られる猥雑なまち並みになったり、都会の新興住宅地と変わらない、どこにでもある、個性に乏しく地域性のない住宅地のまち並みになりはじめています。また、従来の木造低層の家屋が中心の農村的な風景の中に、突然と大規模なマンションや宿泊施設が建ち、今までにない大きさでその存在感を誇示しています。

「ゆふいんとしてのあるべき風景のイメージ」が町内で共有されていないため、このような建築の動向に対して徐々に無自覚・無批判になり、ゆふいんのまち並みは混迷の度を益々深めていくことになります。

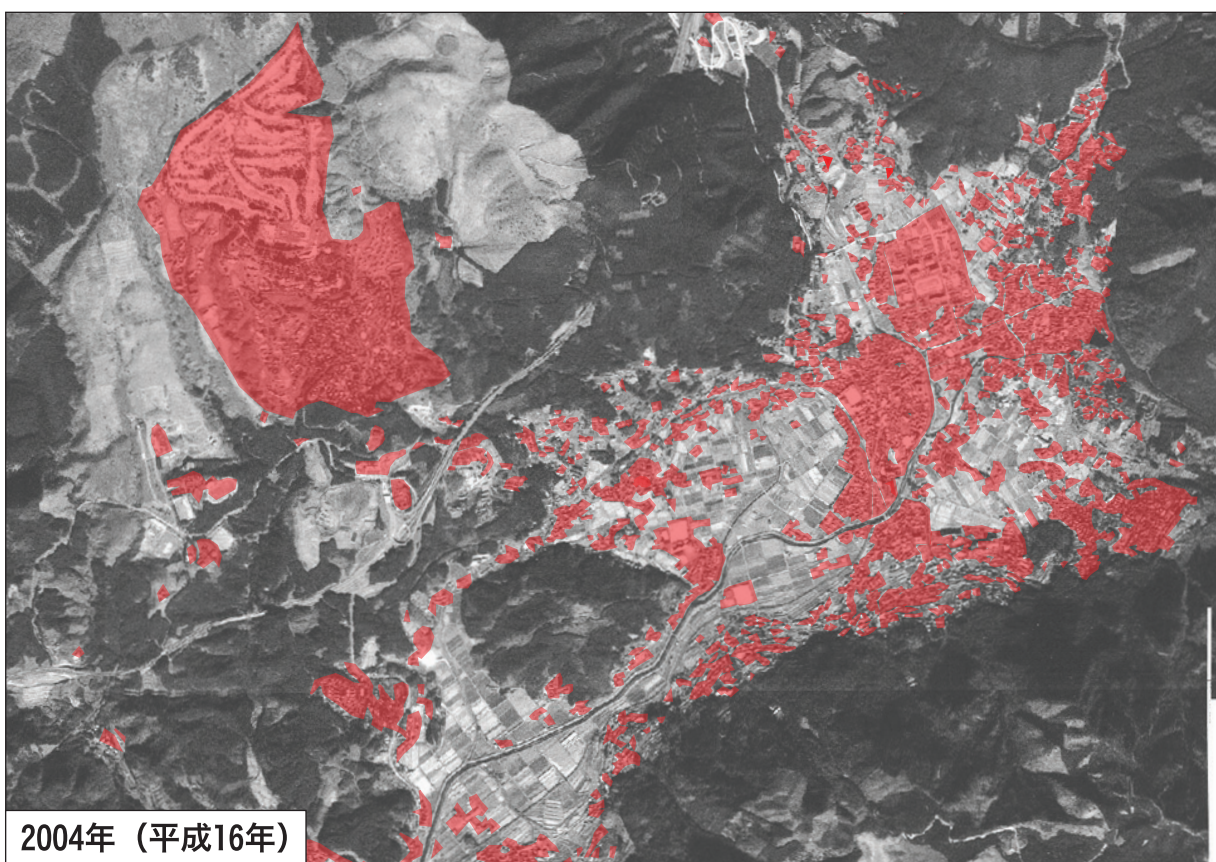
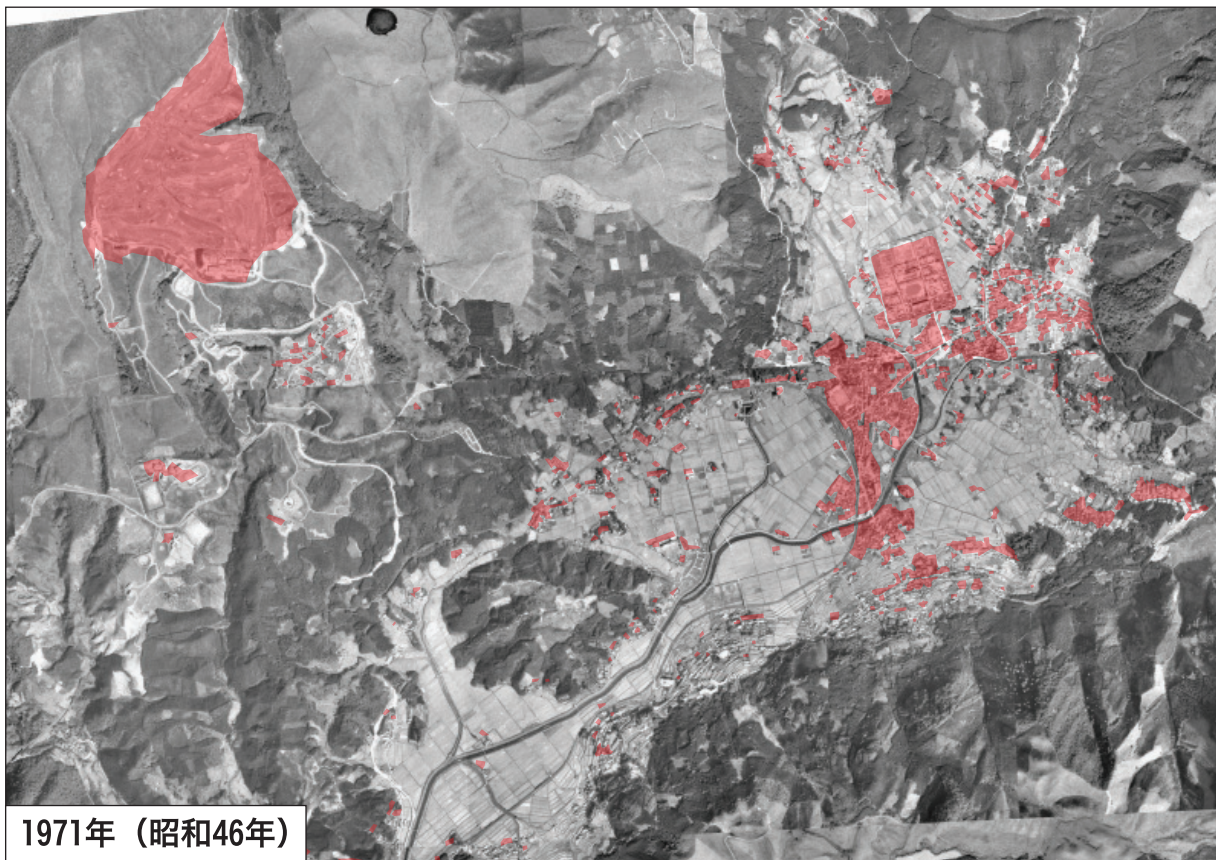
2. 「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」のねらいと位置付け

こうした、デザインとまち並みの混迷状態の中にあって、まずは一刻も早く、創り・守るべき「ゆふいんの風景イメージ」を形として示すこと。そして、それをゆふいんに関わる人すべてで共有することが大切です。

今回の「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」は、町民の方々をはじめ、広くゆふいんに関わる方々に、創り・守るべき「ゆふいんの風景イメージ」を形として示すことを主眼に作成しました。

今後、この「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック」が、多くの人の目に触れ、話題にのぼっていくことで、建築や環境に対する意識や関心が高まっていくこと。さらには具体的には今後新たに建築しようとする時に施主の方や設計・建築関係の方々の「心得ごと」として利用されることを期待しています。

【由布院盆地における開発されたエリアの変化】



3. デザインガイドブックの構成

「ゆふいん建築・環境デザインブック」は、以下に示す4つの項目によって構成されています。

【Ⅰ. 「ゆふいんらしい」風景とは…】 (p.8)

ゆふいんらしい風景を考える基になる要素を明らかにしつつ、ゆふいんがこれから守り、創り、育てていくべき「目標となる風景」のイメージを、大切にしていかなければならない原則的な考え方として示します。

【Ⅱ. ものを創るにあたっての心得】 (p.9-p.12)

前章の「目標となる風景」を実現するために必要な考え方や具体的な配慮の内容について「原則」に基づく「心得」として示し、「ゆふいん建築・環境デザインガイドブック体系図」として整理しています。

【Ⅲ. 建築に関するデザインガイド】 (p.13-p.51)

まず、実際に建物を建てようとするときの作業の流れを想定し、その各段階に応じた課題（考えるべきこと）に対して、このガイドブックの「心得」が参考になるかを示しています。各段階に応じた課題は、建物を建てる時のチェックリストであり、施主をはじめ、設計や建設関係者にとっても考えて頂きたい項目です。そしてその際に該当する「心得」が、どうすればよいのかのヒントとなることを期待しています。

さらに、実際に建築や環境づくりを行なう際に参考にして頂きたい内容を、できる限り町内の優れた事例を使って解説しています。また、様々な用途や地域に即し、できるだけ場面場面に応じて参考になるように努めました。

【IV. 看板に関するデザインガイド】 (p.53-p.68)

Ⅲ章と同様に、まず、実際に看板を設置しようとするときの作業の流れを想定し、その各段階に応じた課題（考えるべきこと）に対して、このガイドブックの「心得」が参考になるかを示しています。

さらに、実際に看板を設置する際に参考にして頂きたい内容を、できる限り町内の優れた事例を使って解説しています。

Ⅰ. 「ゆふいんらしい」風景とは…

【小ぢんまりとしたたたずまいのある風景】



盆地の限られた空間の中で小ぢんまりと棲みこなしている風景がゆふいんらしい風景です。

ゆふいんを取り巻く多様な自然環境は、そこに住む人に安心感を与える程良い距離感の中でコンパクトに存在しています。ゆふいんで暮らす人々の心の拠りどころである由布山は、盆地の中での場所性を知るための目印としても重要な意味を持っています。また、大分川や白滝川も身近な存在として盆地の中の構造を明確にする骨格となっています。

こうした環境を大切にし、調和していくためには「小ぢんまりとしたたたずまいをつくる」ことが必要です。

【内と外との係わり合いを大切にしている風景】



もてなす心が関わり合いを大切にする心であるように、自然との係わり合いや前の道との係わり合い、隣の敷地との係わり合いを大切にしている風景がゆふいんらしい風景です。ゆふいんの暮らしと環境の根底には、農村文化が脈々と息づいています。その中で気候・風土を活かした暮らしぶりや生業としての森や農地との係わり合いがあります。そして、なによりも地域の中でのおおらかな人付き合いがあります。

そういった農村文化に支えられた豊かな暮らしの風景を大切にしていくためには「内と外との係わり合いを大切にしていく」ことが必要です。

【自然な風合いを大切にしている風景】



豊かな自然を引き立たせ、うまく同化し、馴染んでいく風景がゆふいんらしい風景です。

ゆふいんはゆっくりとした時間の流れの中で、建築や環境を使いこなし、磨かれて、うまく年を重ねてゆくような本当の豊かさが似合います。そのような豊かさが感じられる風景は人の心を癒してくれます。

時の流れに耐えて光り輝くためには「自然の風合いを大切にしていく」ことが必要です。

こうした風景を守り・育てていくことがゆふいんの風景づくりです。
「農村文化に支えられる、いやしの里の豊かな暮らしの風景」として
「ムラの風景」をつくっていきたいと考えています。

Ⅱ. ものを創るにあたっての心得

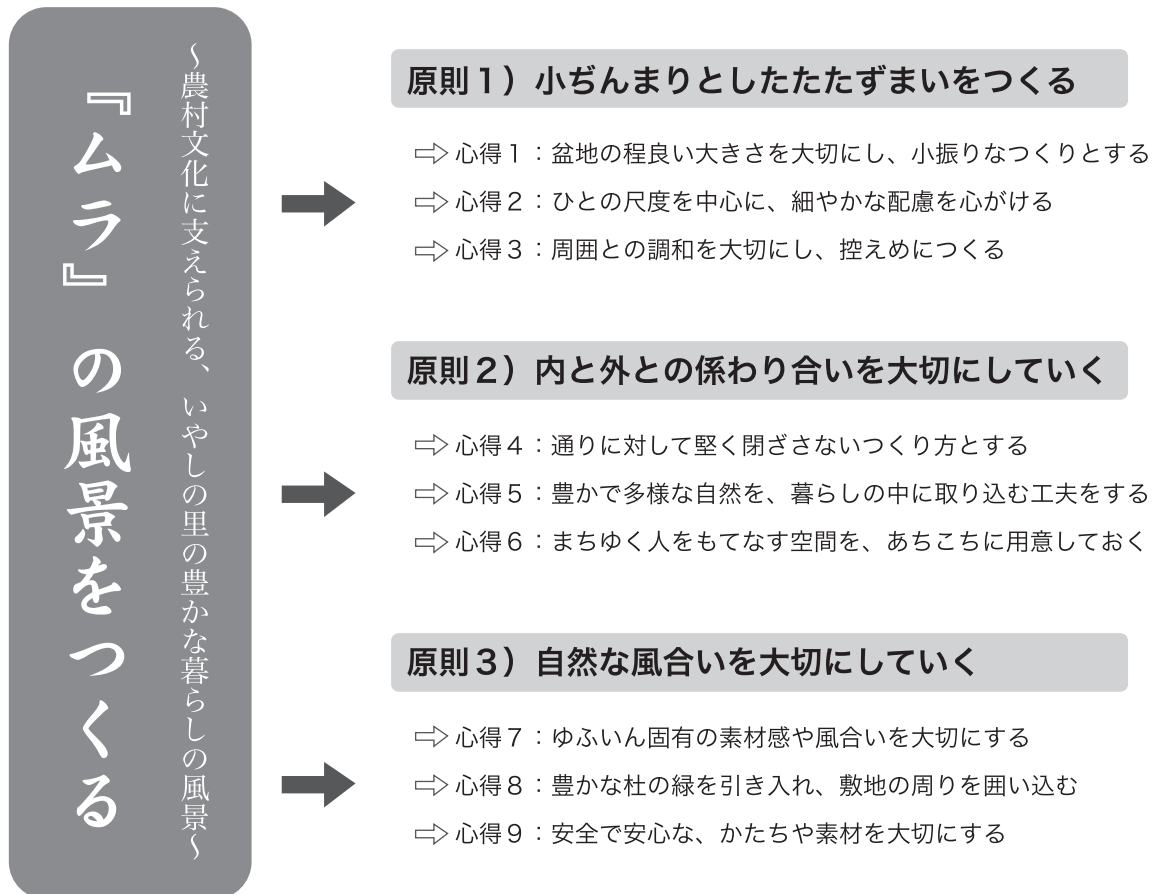
ゆふいんの目標となる風景としての「ムラの風景」を実現するにあたっては、前章で示した3つのゆふいんらしい風景として大切にしていけるべき「3つの原則」と、具体化の方針としての「9つの心得」があります。

【目標を実現する3つの原則】

- ①小ぢんまりとしたたたずまいをつくる
- ②内と外との係わり合いを大切にしていける
- ③自然の風合いを大切にしていける

【ものを創るにあたっての9つの心得】

上記の3つの原則を実際の風景づくりとして展開していく上で、具体的な着眼ポイントとなる「9つの心得」を以下に示します。



『ゆふいん建築・環境デザインガイドブック体系図』

ゆふいんらしい風景

向かうべき目標

目標を実現する3つの原則

風景 1

『小ぢんまりとした
たたずまいのある風景』

盆地の限られた空間の中で小ぢんまりと棲みこなしている風景がゆふいんらしい風景

原則 1

『小ぢんまりとした
たたずまいをつくる』

(視点)
・ 盆地のスケールとバランス
・ 周りとのバランス
・ 敷地全体の中でのあり様

風景 2

『内と外との係わり合いを
大切にしている風景』

もてなす心が係わり合いを大切にする心であるように、自然との係わり合いや前の道との係わり合い、隣の敷地との係わり合いなどを大切にしている風景がゆふいんらしい風景

原則 2

『内と外との係わり合いを
大切にしていく』

(視点)
・ 人の暮らしと自然の係わり合い
・ 内と外の関係性の持ち方
・ 敷地境界のつくり方

風景 3

『自然な風合いを
大切にしている風景』

豊かな自然を引き立たせ、うまく同化し、なじんでいく風景がゆふいんらしい風景

原則 3

『自然な風合いを
大切にしていく』

(視点)
・ ゆふいんとしての質感
・ 建物や緑の織りなす様相
・ 素材や緑のつかい方

『ムラ』の風景をつくる
〜農村文化に支えられる、
いやしの里の豊かな暮らしの風景〜

ものをつくるにあたっての9つの心得…具体的な着眼ポイント

心得 1：盆地の程良い大きさを大切にし、小振りなつくりとする p.18

- ① 由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく・・・ p.18
- ② 盆地の程良い大きさを大切にし、建物が小さく見えるように工夫していく・・・ p.19
- ③ 建物の周りを緑で覆い隠し、見える部分を小さく区切っていく・・・ p.20-21

心得 2：ひとの尺度を中心に、細やかな配慮を心がける p.22

- ① 段階的な大きさの変化で空間を構成していく・・・ p.22
- ② まちゆく人や自転車の視点を中心に考えていく・・・ p.23
- ③ 街角で人の視線が集まるところを強調して、風景にメリハリを付けていく・・・ p.24
- ④ 表情を豊かにする、細かな部分を大切にしていく・・・ p.25

心得 3：周囲との調和を大切にし、控えめにつくる p.26

- ① 敷地いっばいに建てず、「ひき」のスペースをとる・・・ p.26-27
- ② 場所と大きさを考えた色づかい・・・ p.27
- ③ 風景になじむ建物の輪郭を持たせる・・・ p.28

心得 4：通りに対して堅く閉ざさないつくり方とする p.30

- ① 奥を感じさせる空間の構成・・・ p.30-31
- ② 柔らかで、あいまいな境界をつくる・・・ p.31-32
- ③ 人を迎え入れる入口をつくる・・・ p.33

心得 5：豊かで多様な自然を、暮らしの中に取り込む工夫をする p.34

- ① お日様や雨降り、風をうまく取り入れていく・・・ p.34
- ② 由布山や川の流れを意識し、暮らしの中に取り込んでいく・・・ p.35-36
- ③ 自然をいたわり、慎みながら斜面地を使っていく・・・ p.37

心得 6：まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく p.38

- ① まちゆく人がたたずむ場所を作っておく・・・ p.38-39
- ② 暮らしぶりや住み手の気配りを魅せる・・・ p.39-40

心得 7：ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする p.42

- ① うまく年をとって、周りの風景となじんでいく素材を使う・・・ p.42
- ② 地場の特徴的な素材を使う・・・ p.43
- ③ 新素材を自然な風合いに使う・・・ p.44-45

心得 8：豊かな杜の緑を引き入れ、敷地の周りを囲い込む p.46

- ① まちの中に雑木林をつくり出し、囲っていく・・・ p.46
- ② 地場になじんだ樹種(郷土種)を使い、四季の移り変わりが感じられるような緑をつくる・・・ p.47
- ③ 生業(なりわい)の場としての緑を活かしていく・・・ p.48

心得 9：安全で安心な、かたちや素材を大切にする p.49

- ① まちゆく人が安心して歩け、暮らせる素材の使い方をする・・・ p.49-50
- ② 誰もが安全で、住み易いかたちをつくっていく・・・ p.50
- ③ 暮らしの営みの中でつくり出されてきた、風土になじんだ「かたち」を大切にする・・・ p.51

看板をつくるにあたっての6つの心得…具体的な着眼ポイント

心得 1：盆地の程良い大きさを大切にし、小振りなつくりとする p.56

- ① 由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく・・・ p.56
- ② 盆地の程良い大きさを大切にし、看板を小さく抑えていく・・・ p.57
- ③ 看板と建物を一体的にデザインし、看板が小さく見えるように工夫していく・・・ p.57

心得 2：ひとの尺度を中心に、細やかな配慮を心がける p.58

- ① 段階的な大きさの変化で空間を構成していく・・・ p.58
- ② まちゆく人や自転車の視点を中心に考えていく・・・ p.59
- ③ 目印となる樹木を尊重する・・・ p.60
- ④ 表情を豊かにする、細かな部分を大切にしていく・・・ p.61

心得 3：周囲との調和を大切にし、控えめにつくる p.62

- ① 敷地いっばいに建てずにできた「ひき」のスペースを大切にする・・・ p.62
- ② 場所と大きさを考えた色づかい・・・ p.63-64
- ③ 風景や建物と調和した素材・・・ p.65
- ④ 看板同士のデザインのバランスを考える・・・ p.65

心得 4：通りに対して堅く閉ざさないつくり方とする p.66

- ① 奥を感じさせる看板のつけ方・・・ p.66

心得 6：まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく p.67

- ① 暮らしぶりや住み手の気配りを魅せる・・・ p.67

心得 7：ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする p.68

- ① うまく年をとって、周りの風景となじんでいく素材を使う・・・ p.68

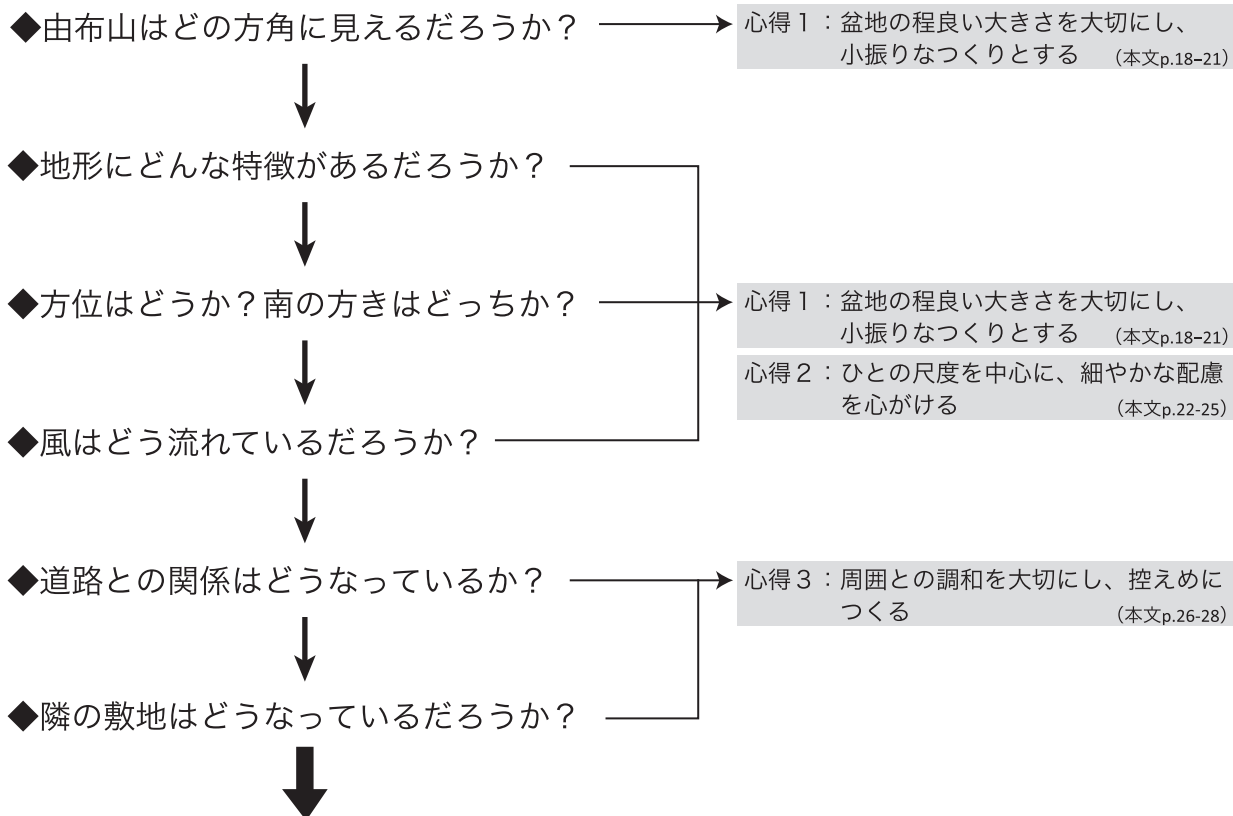
Ⅲ. 建築に関するデザインガイド



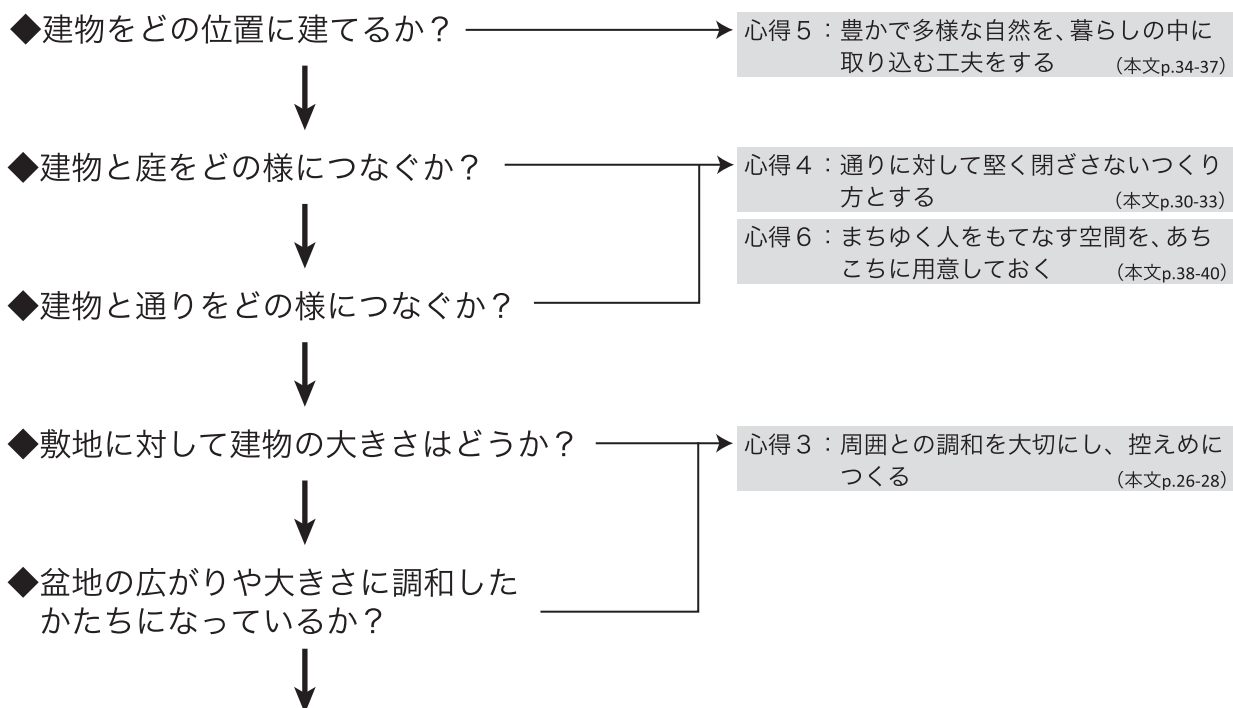
実際に建築する時のガイドブックの使い方

実際に建物を建てようとするときの作業の流れを想定しながら、それぞれの段階毎の課題に対して、このガイドブックをどの様に活かしていくかについて考えてみましょう。

ステップ1. まず、敷地に立って考える



ステップ2. どんな建て方をするか考える



↓

◆周辺の環境に対してやさしい関係を持っているか？ → 心得 5：豊かで多様な自然を、暮らしの中に取り込む工夫をする (本文p.34-37)

↓

◆ゆふいんにふさわしい素材や色を使っているか？ → 心得 7：ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする (本文p.42-45)
心得 9：安全で安心な、かたちや素材を大切にする (本文p.49-51)

ステップ3. 外部空間について考える

◆庭や空地の取り方をどうするか？ → 心得 8：豊かな杜の緑を引き入れ、敷地の周りを囲い込む (本文p.46-48)
↓
◆駐車スペースの取り方を工夫しているか？ → 心得 9：安全で安心な、かたちや素材を大切にする (本文p.49-51)

↓

◆塀や壁、垣根のつくり方はどうか？ → 心得 2：ひとの尺度を中心に、細やかな配慮を心がける (本文p.22-25)
心得 4：通りに対して堅く閉ざさないつくり方とする (本文p.30-33)

↓

◆まちゆく人への心配りはできているか？ → 心得 6：まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく (本文p.38-40)
心得 9：安全で安心な、かたちや素材を大切にする (本文p.49-51)

↓

◆敷地の中の緑は十分にあるだろうか？ → 心得 8：豊かな杜の緑を引き入れ、敷地の周りを囲い込む (本文p.46-48)

↓

ゆふいんらしい『ムラ』の風景になじんだ建物

小ぢんまりとした たたずまいをつくる

盆地の限られた空間の中で小ぢんまりと棲みこなしてきたのが「ゆふいんらしさ」…。

「由布院盆地の広がりの中でのバランスはどうだろうか?」「自分の周りの風景の中でのバランスはどうだろうか?」「敷地の中でのバランスはどうだろうか?」

心得 1 盆地の程良い大きさを大切にし、小振りなつくりとする …… p.18

心得 2 ひとの尺度を中心に、細やかな配慮を心がける …………… p.22

心得 3 周囲との調和を大切にし、控えめにつくる …………… p.26



盆地の程よい大きさを大切にし、 小振りなつくりとする

- 大きなものは、ゆふいんの風景には似合わないの
で避けるべきである。大きな建物を建てることは、
先人達がこれまでに、盆地内の限られた平場の中
で、自然景観を尊重しながら細やかに暮らすこと
でつくり出してきた「ゆふいんならではの風景」
のバランスを壊してしまうことである



- 狭霧台から盆地を眺める。四方を山に囲まれた限られた平場の中を上手に、コンパクトに棲みこなしてきたが、最近になって建物群の広がりが目立つようになってきた。

① 由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく

【丘陵部・住宅地の考え方】



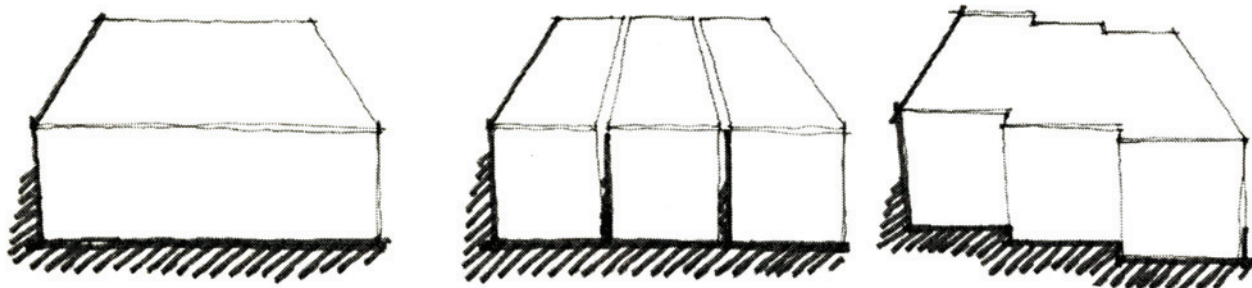
- 建物のデザインを考える時には、由布院を背景とした風景の中で上手くなじみ、由布院を引き立たせる様なかたちや建て方を考えたい。

【商業地の考え方】



- 湯の坪街道から由布山を望む象徴的な景色。湯の坪街道沿いでは建物の高さをおさえることで、由布院のシンボルである由布山の眺めを遮らないようにしたい。

② 盆地の程良い大きさを大切にし、建物が小さく見えるように工夫していく



- 一体となった大きな規模の建物は、小さく見える工夫を考えたい。
- 小さな固まりに分割したり、雁行させることで小さく見せていく。

【商業施設の考え方】



- 1 棟の大きな建物にするのではなく、2つの棟に分けて建てることで、盆地内の風景になじませている。

【旅館施設の考え方】



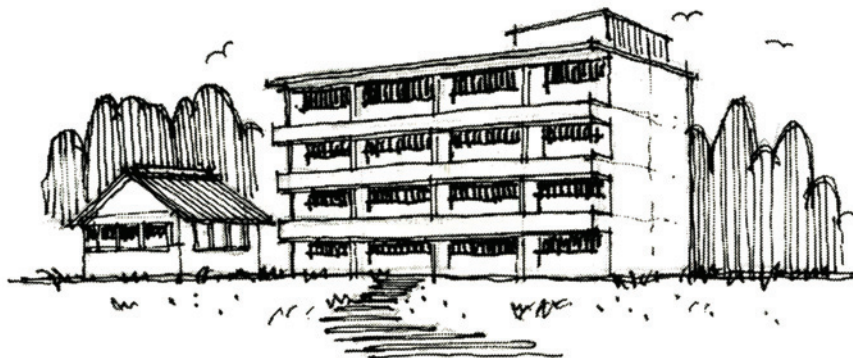
- いくつかの小ぢんまりとした建物に分けることで、風景の中にとけ込んで見える。

【一般住宅の考え方】



- 下屋などを上手く使って、段階的な構造を作り出すことで、コンパクトに感じられる。

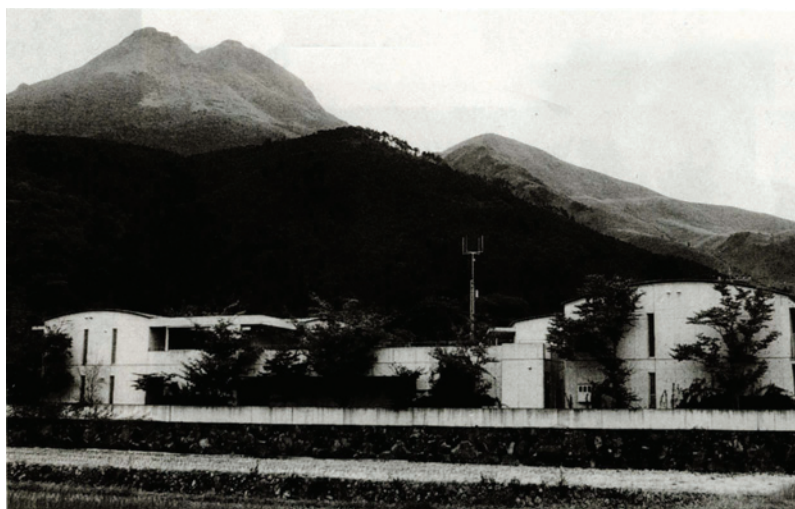
③ 建物の周りを緑で覆いかくし、見える部分を小さく区切っていく



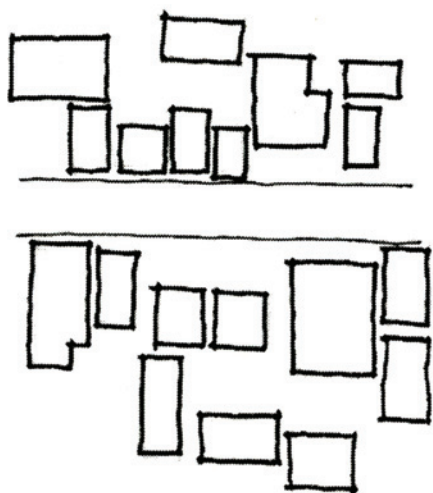
- 集合住宅などの大きくなってしまふ建物が、そのままあらわに建ってしまうのは困る。



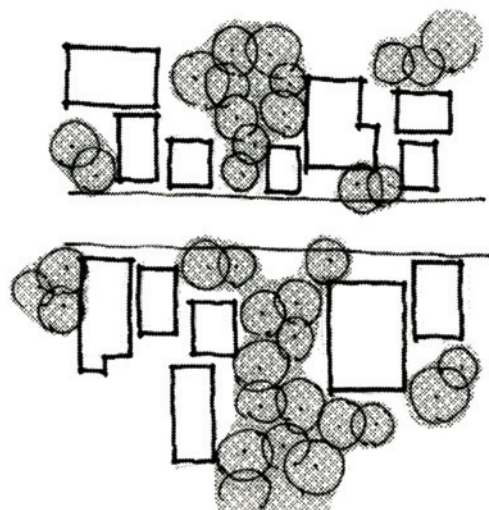
- 周囲に対して建物の大きさや圧迫感を和らげるように、建物の周りに高木を植えたり、足元の緑を配置するなどの工夫を考えたい。



- 建物を低層で小さな単位に区切り、更に周囲を緑で覆うことで、実際の規模よりも小ぢんまりとしているように感じられる。



- 建物が密集し、面的に広がってきている…



- 建物と建物のすき間に緑地を入れていくことで、面的な広がりを分割していく。

【平場の一般住宅や旅館の考え方】



- それぞれの建物は背が高く、大きくても、周りに豊かな緑地があることで視覚的に分断され、圧迫感が弱まっている。

【一般住宅の考え方】



- 川に近接した場所に建つことから、川沿いの景色に配慮して、雑木の緑で建物を覆い隠しており、圧迫感が和らいでいる。

【商業施設の考え方】



- 入口や庭先の演出として、豊かな緑を取り込んでいることで、建物の大きさを和らげることもつながっている。

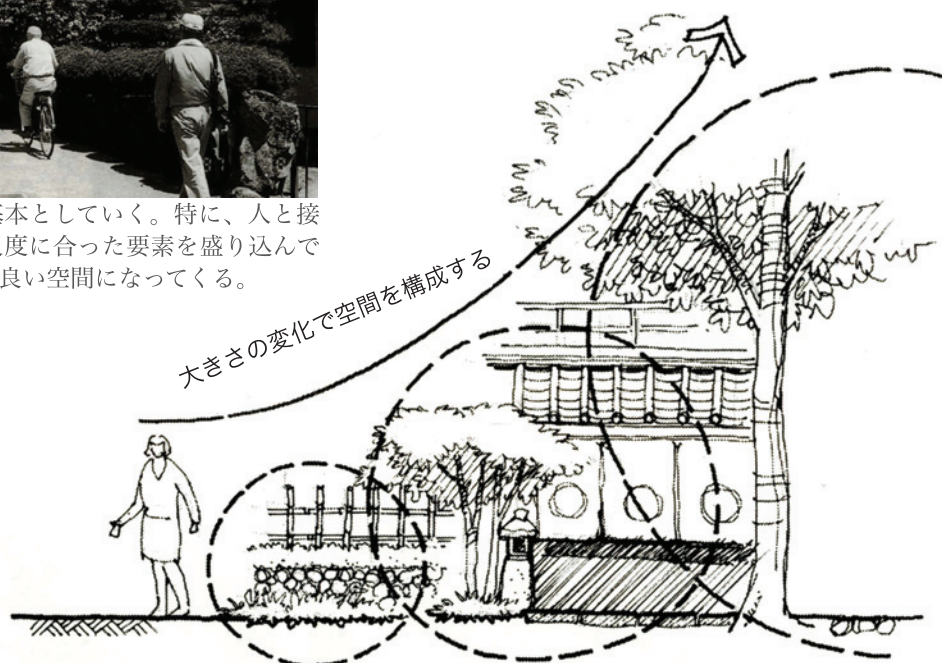
ひとの尺度を中心に、 細やかな配慮を心がける

- ゆふいんのまちの大きさは、歩く人や自転車に乗った人に、最もなじみやすいであろう。そこに建つ建物は、そうしたひとの視点や尺度を中心に考えられるべきである。
- 単調で均質な空間は面白くない。大きなものばかりだと大ざっぱな印象を受けるし、細やかなものばかりだと力強さに欠ける。空間として面白いのは、足元に咲く繊細な草花などの小さなものから、力強い由布山まで、様々な大きさのものが入り交じった、多様性を持った空間である。

① 段階的な大きさの変化で空間を構成していく



- 段階的な空間構成を基本としていく。特に、人と接する部分では、人の尺度に合った要素を盛り込んでいくことで、居心地の良い空間になってくる。



- 歩行者や自転車から視線にたって、高さや大きさを工夫する。

【小さなもの】

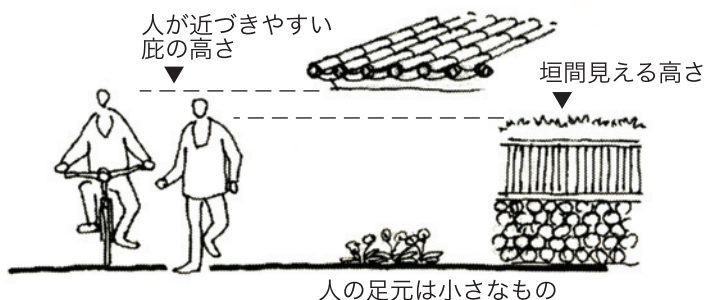
- 足元の草花
- 石積み
- 竹垣や生け垣の高さ

【中くらいのもの】

- 低木類
- 石灯籠
- 下屋のひさし

【大きなもの】

- 中・高木
- 建物全体



【商業施設の考え方】



○ 足元の緑などの小さなものから、中木や下屋のひさしなどの中くらいの大きさ、高木や建物全体まで、多様な大きさのものがきちんと入っていることで、見た目にもバランスのよい景観になっている。



○ 特に大きな建物の場合には、通りを歩く人が居心地悪くならないように、人の尺度に合う要素を作っておく必要がある。

② まちゆく人や自転車の人の視点を中心に考えていく

【人の視線や尺度に合わせた軒の高さ】



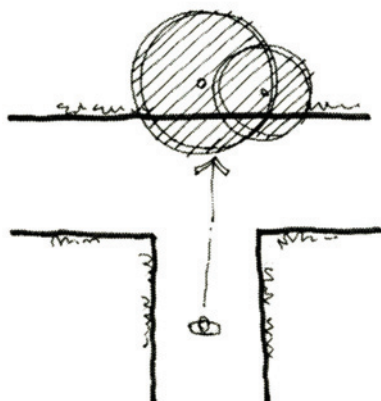
○ 人の尺度に合った軒の高さになっていることで、建物が身近に感じられ、入りやすい雰囲気になっている。

【人の視線を考えた生け垣づくり】

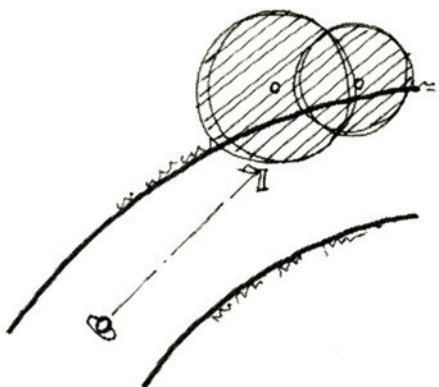


○ 生け垣や植え込みの高さは、人の視線や尺度を意識して考えたい。いたずらに高くしないで、見えそうで見えないくらいの高さに抑えても十分ではないか。

③ 街角で人の視線が集まるところを強調して、風景にメリハリを付けていく



● T字路の突き当たり部分



● カーブ地点の場合



○ 人の視線を受け止める場所にある要素（アイストップ）は、まちの中でサインの様な役割を持っている。巨大なシンボルツリーなどを置くことで、場所の認識が強められてくる。

【街角の目印になる樹木】



○ 三叉路やまちの辻など、人の視線が集まる場所にシンボリックな木などがあると、印象深く認識されることになる。

【店先の目印になる木】

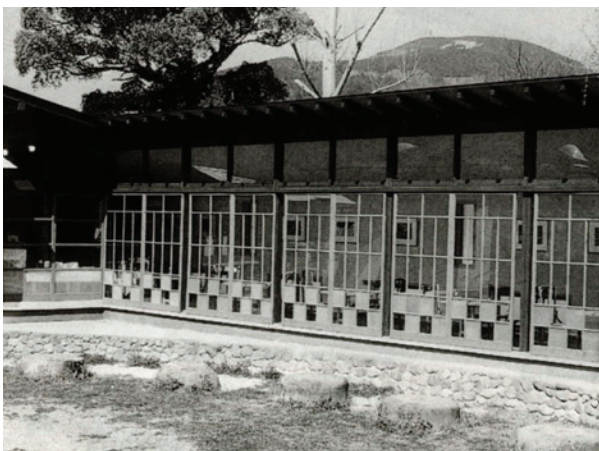


○ 特徴的な建物で主張していくものも良いが、店先の人目に付くところに自慢の木を置くことで、まち行く人の意識を引きつけていくのはどうだろうか…。

④ 表情を豊かにする、細やかな部分を大切にしていく

- 「暮らしぶり」や「こだわり」は、各部位（ディテール）の中にも見え隠れしてくる。豊かな暮らしの表現として、建物細部（ディテール）への細やかな配慮を怠らない。
- 新旧様々な様式の建物が混ざっているのがゆふいんの風景であり、そこに共通しているのは、細やかな部分の表情の豊かさである。繊細で表情豊かな窓からは、ゆふいんらしさが感じられるのではないかな。

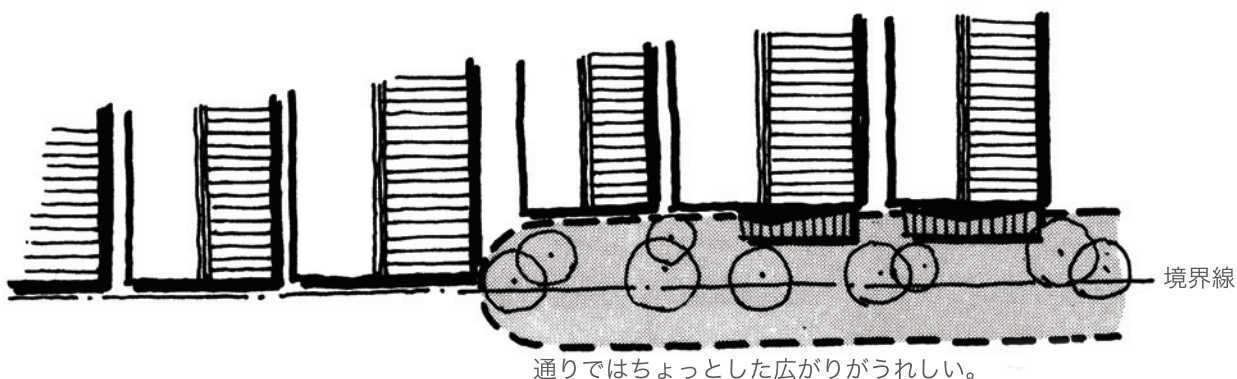
【繊細に作り込まれたゆふいんらしい入口部分や窓】



周囲との調和を大切にし、 控えめにつくる

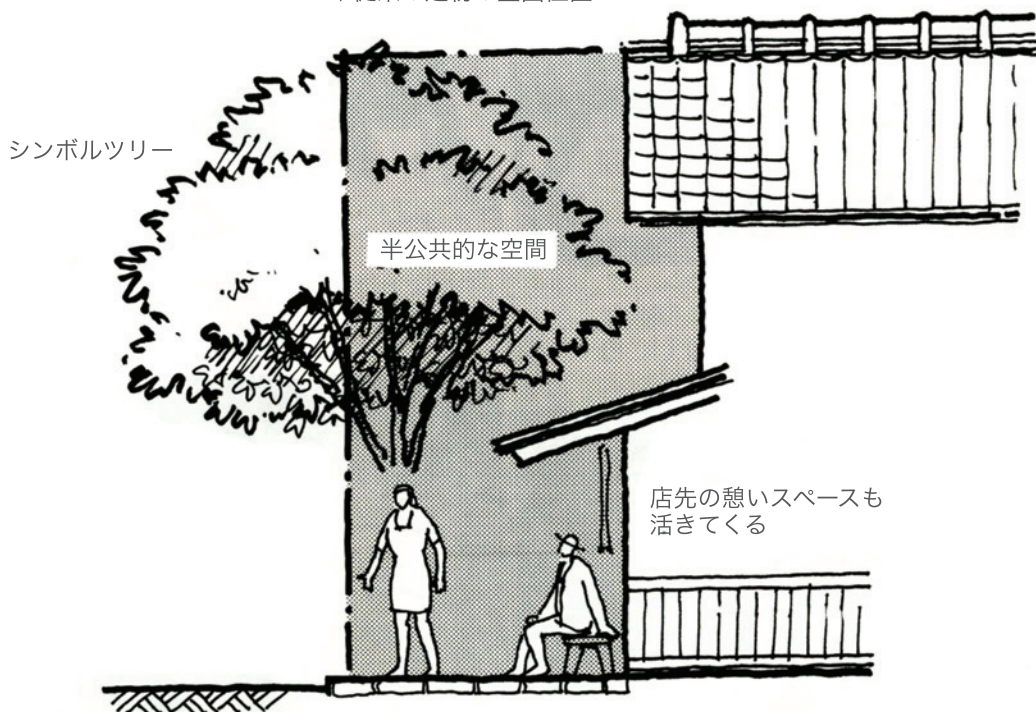
■ ゆふいんに求められるのは、「わきまえる心配り」を持った建築である。ここでは、小粒できらりと光るセンスを持ちながらも、あくまでも主役は豊かな自然であり、情緒的なムラの風景であることを悟り、自らが出しゃばり過ぎることのないようわきまえる姿勢を、エチケットとして持っていきたい。

① 敷地いっぱいには建てず、「ひき」のスペースをとる



- 「ひき」の空間をとることで、空間的なゆとりが生み出されてくる。

▼従来の建物の壁面位置



- 境界線から少し下がって建てることで生み出されるスペースは、緑地の創出や憩い空間の創出に活かし、場の魅力を高めていきたい。

【商業施設の店先でひきの空間をとる】



○ ひいて建てたことで生まれたスペースを、潤いや憩いの空間として活かしていることで、魅力的な店先が演出されている。



○ 特に道幅のないところでは、ひいて建てることの効果は大きい。ちょっとしたスペースでも、歩行者が歩きやすくなってくる。

② 場所と大きさを考えた色づかい



○ 色づかいは難しい。鮮やかな色やきつい色を大きく使うのは問題だが、緑一面の中にアクセントとして上手く使っていけば、風景が引き立ってくる。色を決める場合には、近づいて見たり離れて見ることを繰り返し、周りになじむ色と使い方を慎重に選択していきたい。

③ 風景になじむ建物の輪郭を持たせる



- 平坦で大きなかたまりの輪郭は由布山に似合うだろうか？



- 開口幅を抑え、建物頂部のかたちを工夫していく。

【地域に残る農家住宅のなつかしい輪郭】



- 農家集落に今も残っている、大きな勾配屋根と屋敷林とが作り出す基本的な輪郭。

【商業施設のなじみの輪郭】



- 大きな平入りのひさしとシンボルツリーは、ゆふいんの商店建築物に共通して見られるスタイルになっている。

【公共施設の印象的な輪郭】



- 由布院駅の柔らかかで印象的なかたちは、ゆふいんの顔にもなっている。

内と外との係わり合いを大切にしてい

もてなす心は、関わり合いを大切にする心…。

「自然と触れ合い、自然の声を聞いているだろうか？」 「内に閉ざしてしまって、まちゆく人へのもてなしの心を忘れてしまっていないだろうか？」

心得 4 通りに対して堅く閉ざさないつくり方とする …………… p.30

心得 5 豊かで多様な自然を、暮らしの中に取り込む工夫をする…… p.34

心得 6 まちゆく人をもてなす空間を、あちこちに用意しておく…… p.38



通りに対して堅く閉ざさない つくり方とする

■ 通りににじみ出し、外から見え隠れする内側の暮らしや営みの気配は、その場ならではの風情を生み出し、まちゆく人にも親近感を覚えさせてくれる。見えそうだけれども見えない、囲まれてはいるけれどもちゃんと垣間見られる。そういった内と外の狭間での緊張感のある駆け引きが、期待感をそそる魅力的な場を作り出していく。

① 奥を感じさせる空間の構成

●暮らしぶりが伺い知れるような建物

●見え隠れさせる緑の構成

●まち行く人の目をひくアクセントになる高木

●透けて、垣間見られるような境界部分のつくりかた

●人を迎え入れる、内へといざなっていく入口空間の演出

【商業施設における考え方】



○奥への期待感を持たせ、まち行く人が気軽に入って行きやすい庭のつくり方にすると良い。
(外の空間が内部に入り込んでいく)

【湯の坪街道沿いの商業施設の考え方】



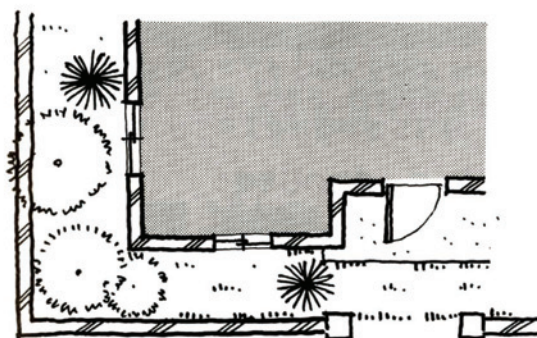
○下がって建てることで生まれたスペースを活かし、店の内の雰囲気のにじみ出させていることで、魅力的な空間になっている。
(内の空間が通りに広がっていく)

【旅館施設における考え方】

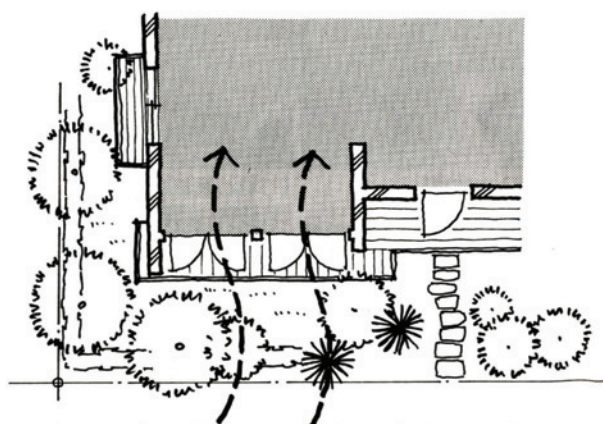


○雑木林の中を通過して目的の建物にたどり着くような空間の構造は、まさにゆふいんらしいと言える。

② 柔らかで、あいまいな境界をつくる



●内に閉ざした建物と堅牢に囲い込んだ壁は、内と外とを遮断してしまう。



●オープンで柔らかなつくりの庭先と、外部の環境を内部に取り込むつくりの建築

【商業施設の境界のつくり方】



○構造物や生け垣などできっちりと囲い込まず、高木を植えることで、道路境界線の場所を意識させている。



○生け垣や植え込みなどの柔らかい風合いを持ち、透けて見える構造物で境界をつくることで、内と外とがあいまいな空間にすることができる。

【一般住宅地の境界部のしつらえ方】



○しっかりとした境界部のづくりでも、生け垣の柔らかい素材感と、目線よりちょっと高いくらいの背丈に抑えていることで、固く閉ざした印象は受けない。



○生け垣を使うことで、境界部の雰囲気が柔らかく感じられるばかりではなく、季節毎のうつろいがまち並み環境を豊かにしてくれる。

【ゆふいんに見られる境界部のしつらえ方いろいろ】

●竹を使う



【石積みと竹垣】



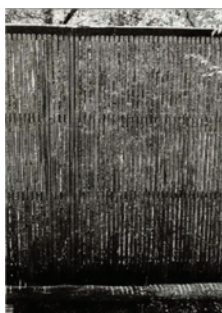
【竹垣と板塀】



【柴垣】



【竹組み】



【竹垣】

●地の石を使う



【塚原石と竹垣】



【石積み】



【石積みと茶の木】



【塚原石と漆喰壁】

●木や土を使う



【板塀】



【漆喰壁】



【瓦と漆喰壁】

③ 人を迎え入れる入り口をつくる



○通りから玄関口までをつなぐ空間は、単に通路ではない。内と外とをなじませる緩衝空間（控えの間）であり、空間の大小に係わらず、一つの表情を持った空間として、大切にしつらえられるべきである。

【商業施設入口のしつらえ方】



○小さなスペースでも、それぞれにきちんとしつらえていくことで、表情豊かなものになっている。
玄関先にたどり着くまでの間に、そこを通る人に、どれだけ期待感を持たせることができるだろうか？

豊かで多様な自然を、 暮らしの中に取り込む工夫をする

- 凛としてそびえる由布山をはじめ、その麓一面に広がる雑木林や生業の場である農地、大分川や白滝川のせせらぎなど、盆地内に満ちあふれている多様な自然環境や美しいその眺めは、何モノにも代え難い「ゆふいんの誇れる財産」であろう。
- この豊かな自然の姿やそのうつろいを、まちや住まいの中に上手く取り込み、日々、感じとりながら暮らせるとすれば、それは素晴らしいことであり、そうした「自然との対話や関わり合い」を大切に考えた住まい方、暮らし方が「ゆふいん」にはふさわしい。

① お日様や雨降り、風をうまく取り入れていく



○お日様や雨降り、そよ風を取り込むことができる、中庭などの「半屋外の空間」を大切にしたい建て方をする
と良い。こうした自然の営みに意識を向け、身近に感じながら暮らせる建物を目指したい。

② 由布山や川の流れを意識し、暮らしの中に取り込んでいく

【由布山を感じながら暮らす】



○由布山を部屋から眺めることができるつくりをしたり、他の場所から由布山を眺めるのに妨げとならないように建て方を工夫したりと、いつも由布山を意識しながら暮らしていきたい。

【金鱗湖を意識して暮らす】



○金鱗湖のほとりの景観は、地域ゆかりの温泉（下ん湯）もあり、由布山と並ぶシンボリック存在である。水辺の風景やかつての面影の残る場に対して敬意を払い、控えめな建て方を心がけたい。

【かつての面影を今も残す下ん湯】



【白滝川・大分川と由布山】



○白滝川と大分川の川辺の風景越しに眺める由布山は、最もゆふいんの風景を象徴する一つといえる。こうした場所に建つ建物は、特に風景の中で控えめな存在であることを心がけたい。

【川との密接な関わりあい】

【まちの中を巡る水辺】

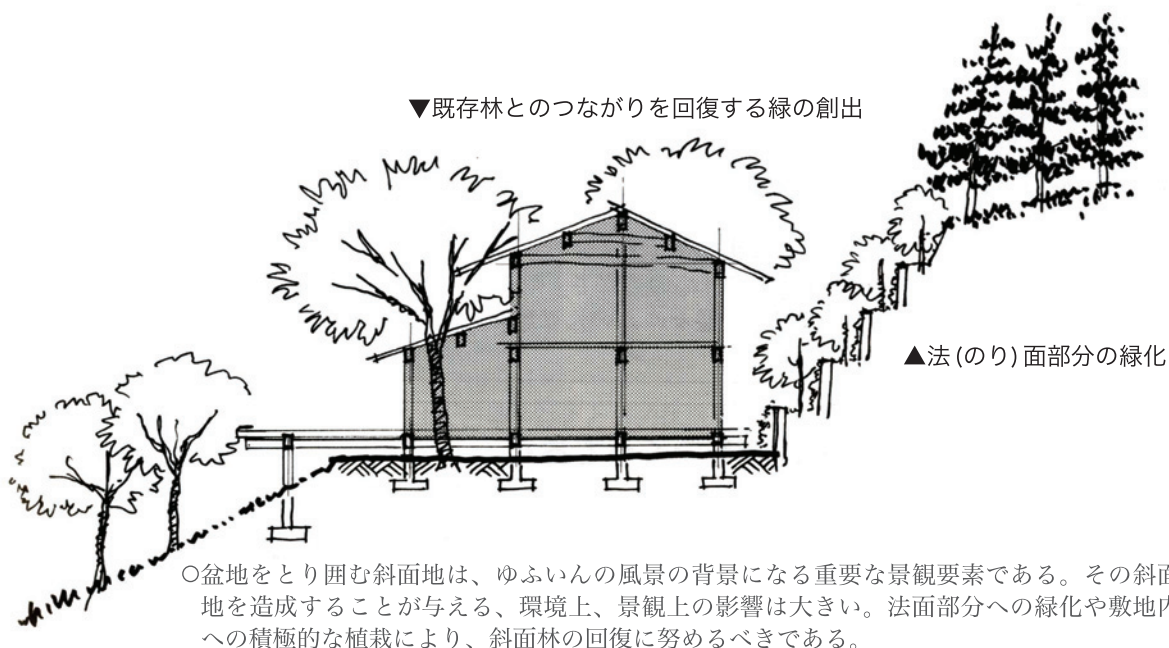


○まちの中を巡る水路は、最も身近に水を意識することができる場である。ゆふいんでは、あまり強く手を入れない、程良く自然味が感じられる姿がなじんでいる。



○かつては川の水で洗いものをするなど、川と密接な住まい方をしていた。もう一度水や川を身近に感じながら暮らししていきたい。

③ 自然をいたわり、慎みながら斜面地を使っていく



【丘陵部の住宅や商業施設の建て方】



○大規模な自然地形の改造は、風景だけでなく自然環境上からも望ましくない。できるだけ大きな造成は避け、建物の形の方を地形形状に合わせていく心配りと工夫が欲しい。

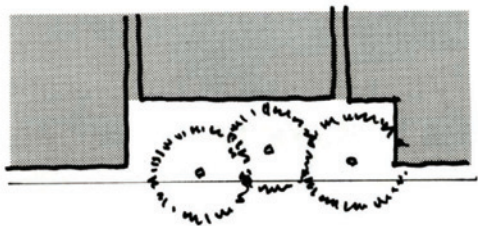
○宅地内に雑木林を再生していくことで、周りの斜面地の環境となじませていく。



まちゆく人をもてなす空間を、 あちことに用意しておく

- 例えば、街角に植えられた緑が落とす木陰は、夏の暑い日のオアシスになるだろうし、突然の夕立でも雨宿りすることができる。こうした、まち中のちょっとした「もてなし」の心配りが、まちゆく人と「場」との結びつきを強めていくことになる。
- 通りににじみ出してくる「住み手のこだわり空間」や「暮らしぶり」は、そこに暮らす人たちの「心の豊かさ」や「気持ちの余裕」の現れであり、それらを目にした人達は、益々ゆふいんに魅せられていくだろう。

① まちゆく人がたたずむ場所をつくっておく



●通り沿いの「ひき」のスペースを活かす

【店先でもてなしていく】

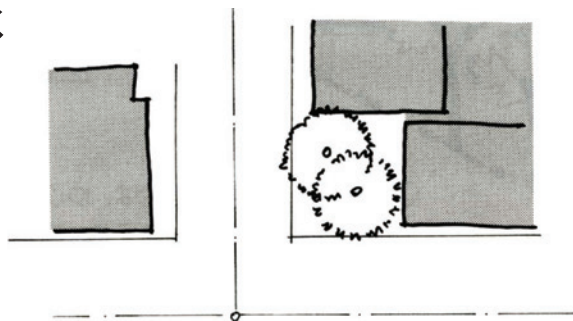


○店先の空間に木陰を生み出す木やつるを這わせた棚、ちょっと休めるテーブルなどを置き、「憩いの場」をつくり出す。

【駅周辺のエリアでの考え方】



○敷地にあまりゆとりがない駅前商業地などでは、歩道部分と店舗側とが一体になって「もてなし空間」をつかっていくとよい。



●辻空間の一角を利用する



【まちの中にちょっとした休憩広場をつくりこんでおく】



○街角の一画に作られる小広場には、日陰やひとときの休息を求めて人が集まってくる。こうしたまち行く人への心配りが用意されていることが、ゆふいんの心の豊かさの現れではないだろうか。

② 暮らしぶりや住み手の気配りを魅せる

【暮らしぶりを見せる】



○昔使われていた井戸や道具類、裏手に積まれた薪積みなどは、場に生活感を漂わせてくれる。こうしたものが、自然に置かれているのもゆふいんらしさではないだろうか。

【店先を飾り、街並みを彩っていく】



○玄関先に置かれる花や緑は、まち並みを明るく彩るばかりではなく、まち行く人の気持ちを和ませてくれる。こうした住み手のちょっとした心配りが、ゆふいんの魅力を一層高めていく。

【一般住宅地や店先での駐車スペースのつくり方を考える】

○ゆふいんに限らず、駐車スペースの取り方による、まち並みへの影響は重大な問題になっている。
暮らしに必要なものだからこそ、住み手の心配りと工夫によって、きちんと管理されている必要があるのではないか…。



○通りから停まっている車やカーポートの屋根が見えないように生け垣で覆い隠していく心配りが欲しい。



○店舗の正面は「もてなしの場」である。駐車スペースは建物の横側や奥にひっそりと納め、車が停まっている時は、オープンスペースとしても活かせるように、店舗前と一体的なしつらえにしておく方が良い。



○敷地にゆとりがない場合には、建物と一体的につくり、納めていく方法もある。

自然な風合いを大切にしてい

豊かな自然を引き立たせ、うまく同化し、なじんでいく…。

「うまく年をとって、風景の中で落ち着く様な素材のつかい方をしたい」「豊かな緑が囲い込み、周りの雑木林とうまく同化していきたい」「ゆふいんならではの質感を持ちたい」

心得 7 ゆふいん固有の素材感や風合いを大切にする p.42

心得 8 豊かな杜の緑を引き入れ、敷地の周りを囲い込む p.46

心得 9 安全で安心な、かたちや素材を大切にする p.49



ゆふいん固有の素材感や 風合いを大切にする

- ゆふいんの風景の中で最も印象的に感じられるのは、「素材が持つ風合いをうまく引き出す使い方の巧みさ」であろう。石や土、木や竹といった、風土に合った天然素材をうまく使いこなすことで、ゆふいんならではの「自然で柔らかで、軽やかな風合い」が作り出されるのである。
- こうした天然の素材は、日々の暮らしの中でうまく年をとることができる素材であるため、長い年月の経過を通じて、周りの風景となじんでいくことができるのである。

① 上手く年を取って、周りの風景と馴染んでいく素材を使う



- 自然の樹木や生け垣は、時が経つとともに成長し、変化していくことで、風景の中になじんでいく素材である。また、石や土、竹や木材などの天然素材は、時間の経過とともに風化していき、落ち着いた表情や質感を醸し出していく。



- 風景の成長（経年変化）を魅せていきたい
 - ・成長していくシンボルツリー
 - ・風化していく境界部分のしつらえ



- 天然の素材を使うことで、建物の質感や色味が周りの風景に無理になじんでいく。

② 地場の特徴的な素材を使う



○ その地域にある材料（地場材）や樹種（郷土種）を使っていくことが望ましい。そうした素材を使うことが、なじみ、親しまれてきた盆地の風景を壊さないことにつながっていく。また、樹木などは、何よりも長く緑を維持していくことにつながる。

【ふつうの素材を工夫して使っていきたい】



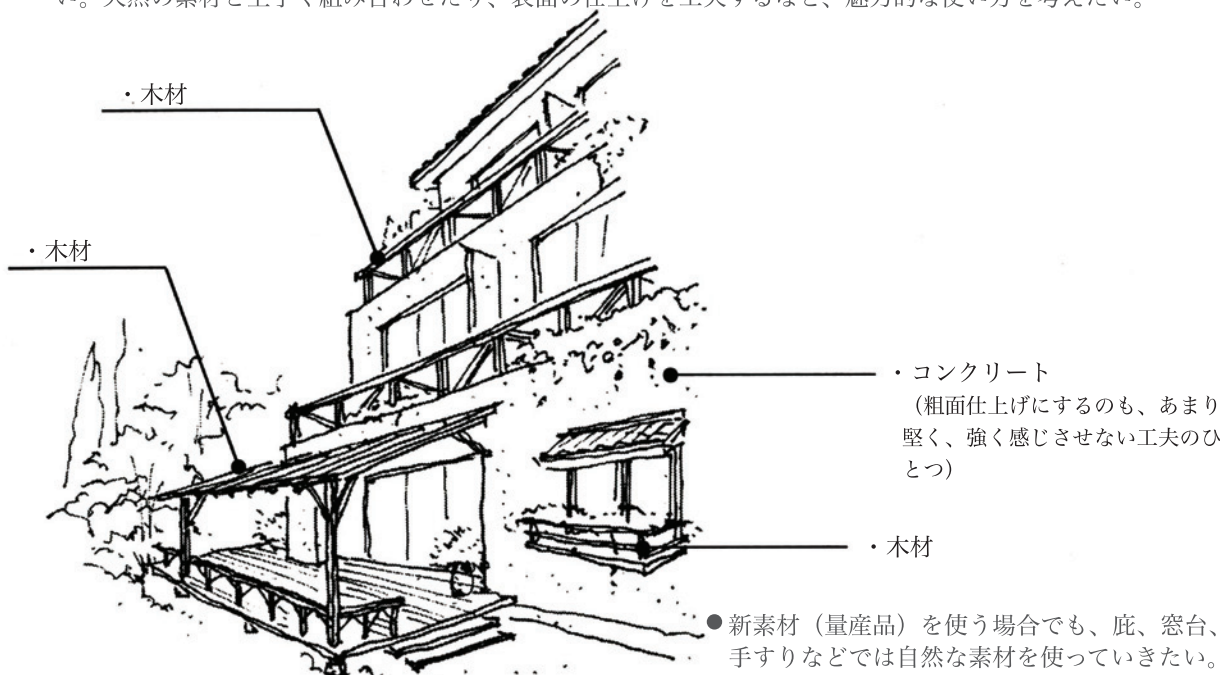
○ いつも何気なく見かけている瓦も、使う側の工夫次第で、魅力的な雰囲気が創り出せる。



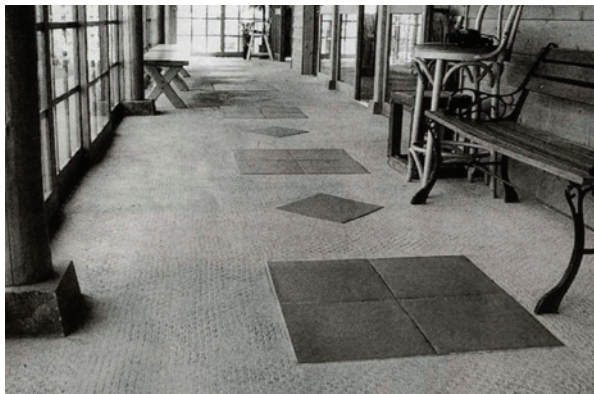
○ こうした素材使いの工夫が、建物への愛情を深めていくことにもつながっていく。

③ 新素材を自然な風合いに使う

- 新建材の利用については、十分な気配りが必要になってくる。丈夫で廉価な新建材を使って建てることは、ある意味では避けられない。しかし、そのためにまちの風景が犠牲になることは、断じてあってはならない。天然の素材と上手く組み合わせたり、表面の仕上げを工夫するなど、魅力的な使い方を考えたい。



【新建材を上手く使って建てる】



- コンクリートとレンガタイルを使った土間。特にコンクリートの表面を粗面に仕上げていることで、柔らかな感じに仕上がっている。

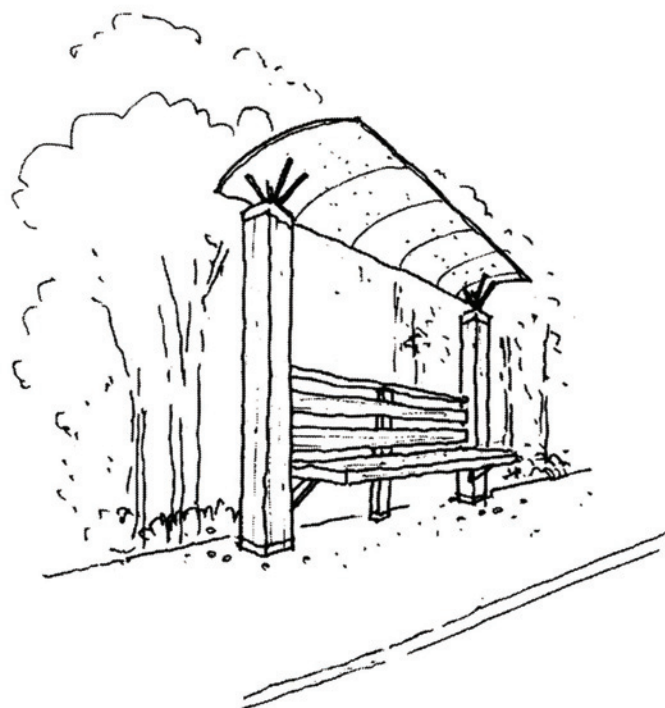
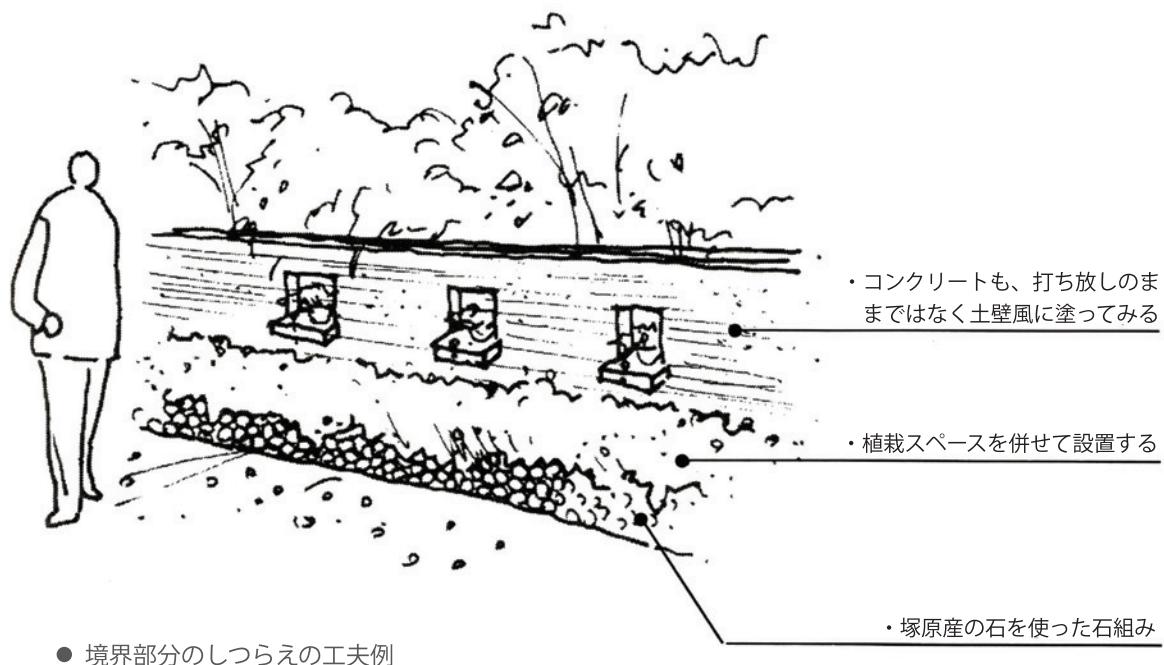


- サイディングボード（新建材の外壁）に木の板を合わせて使うことで、落ち着いた雰囲気に仕上がっていく。



- ブロック塀の高さを低く抑え、植え込みと合わせ、さらに部分的にレンガを使ったことで、殺風景な印象は感じられない。

【新建材を上手く使って建てる】

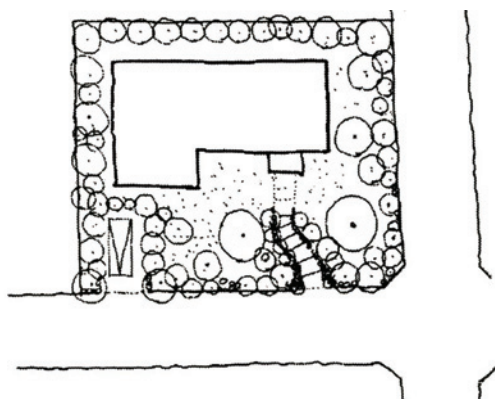


- 例えば、バスの待合所などは、金属の他に板や材木を組み合わせる使い、周りに樹木などを植えてみると、温かい雰囲気になってよいのではないかな。

豊かな杜の緑を引き入れ、 敷地の周囲を囲い込む

- ゆふいんの盆地の原風景としてイメージされるのは、里山の雑木林である。里山の雑木林は、里に暮らす人々によって細やかに手入れがされた「杜」であり、そこからは暮らしに必要な恵を授かることができる。豊かで、明るく、安全な森である。
- そういった、暮らしを豊かにしてくれる里山のような雑木林を、まちの中につくっていきたい。

① まちの中に雑木林をつくり出し、囲っていく



【一般住宅での考え方】



【商業施設での考え方】



- 少しでも良いから庭に木を植えて、覆い隠していききたい。できればその木は大きいほうが良い。特に丘陵部では、もう一度雑木林を取り戻していききたい。



- まちの中に雑木林をつくり、まわりの林とつなげていききたい…。



【丘陵部の商業施設での考え方】



② 地場になじんだ樹種（郷土種）を使い、四季の移り変わりが感じられるような緑をつくる



【実や花のつく木を植える】



○ 花が咲き、実がなり、季節を感じられる、楽しみのある緑を植えると良い。住み手は、日々、木々の様子が気になり慈しんで育てていくだろうし、通りから見えるきれいな花や香ばしい匂い、美味しそうな実には、街行く人々も心奪われるであろう。

【もともとあった樹を大切に残す】



○ できるだけ、もともとそこに生えていた樹を大切に残し、活かした建て方を工夫したい。その方が大きな樹を配置できるし、せっかくの樹を切らなくてもすむ。

③ 生業（なりわい）の場としての緑を活かしていく

○ 田園や畑などの緑は、季節の移り変わりとともに違った表情をつくり出してくれる。こうしたなりわいの場としての緑を身近に残しておくことが、風土の風景に親しみや愛着を感じるキッカケになってくる。

【ゆふいんの典型的な農の風景】



【平場に広がる田園の風景】



【丘陵部の棚田の風景】



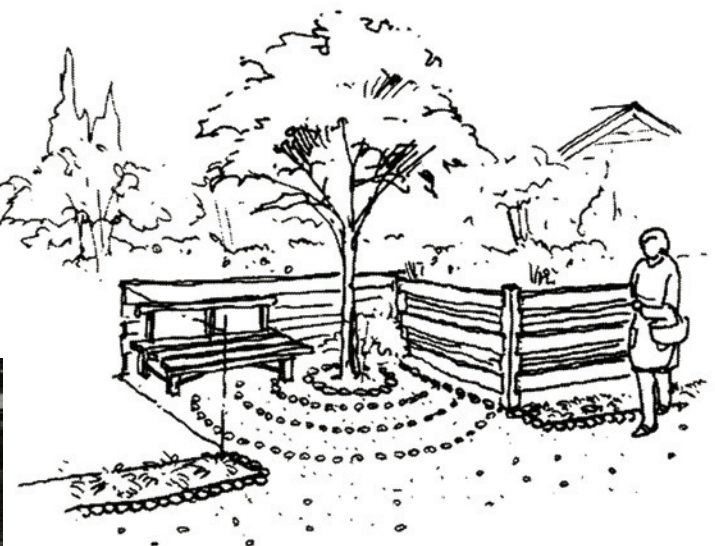
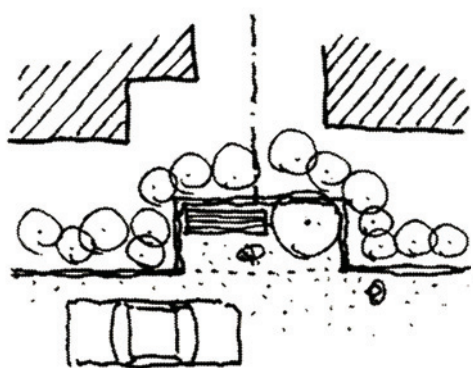
【ゆふいんの風物詩、由布山とわらこづみ】



安全で安心な、 かたちや素材を大切にする

- 我々がつくり出そうとしている「理想郷」が、まちゆく人の安全や快適さを損なうものであってはならない。また、そこに暮らす人にとってなじみにくいものであってはならない。
- 安全で快適な利用を十分に踏まえ、風土になじんだものであるからこそ、「理想郷」に対してより多くの人々の共感を呼ぶことができ、後世にも長く守り続けられていくことになるのだから。

① まちゆく人が安心して歩け、暮らせる素材の使い方をする



- 散歩する人が最も心地良く歩けるように、路面の仕上げを土に近い素材で仕上げています。雨の日の水はけも良く、なによりも風景になじみやすい。また、要所要所に休憩できる場所を用意することも忘れない。

【車と人が共存できるまちへ】



- まちの中心部では、車と人がうまく共存できるように、通りのつくり方を工夫したい。車がスピードを落とすよう、植樹柵を置くことで、緩やかに通り蛇行させている。

【環境にやさしい駐車場の舗装】



- 数台が駐車する駐車場では、大きな面積に渡って舗装面ができてしまう。そこで芝生ブロックなど、柔らかい素材感を持ち、雨水が土の中にしみ込みやすい素材を使っていきたい。

② 誰もが安全で、住み易いかたちをつくっていく

- まちのいたる所にあるちょっとした段差やすき間は、車椅子や乳母車だけでなく、大人でも油断するとケガや事故の原因になる。そうした小さな障壁を、皆のちょっとした配慮によってなくしていきたい。

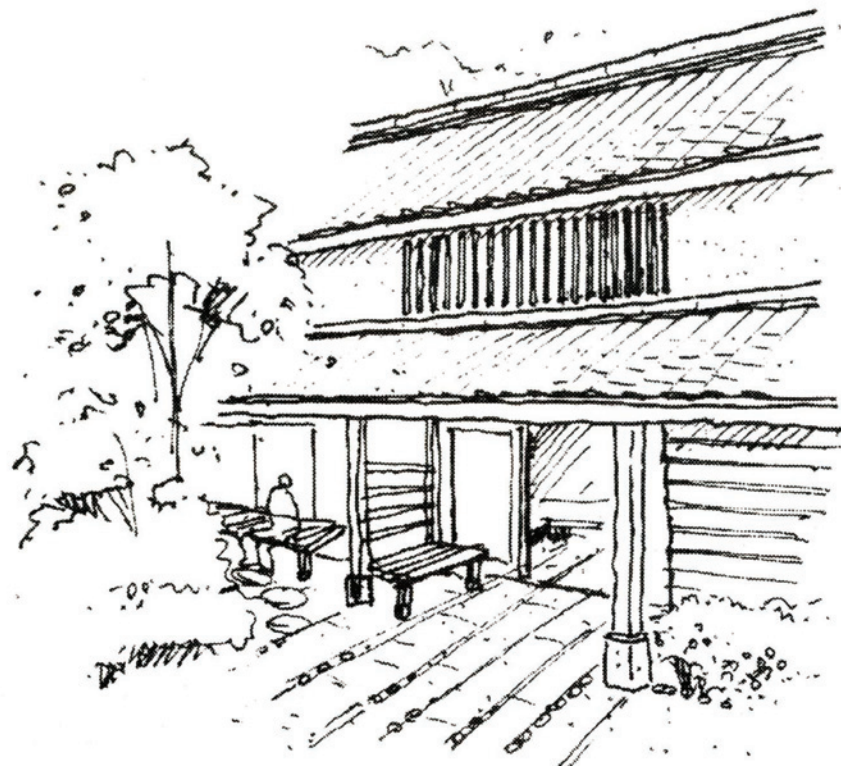
【段差を解消するちょっとした配慮】



【車椅子でも利用できるトイレ】



③ 暮らしの営みの中でつくり出されてきた、風土になじんだ「かたち」を大切にする



○ 時代とともに、新しいかたちの建物が生まれてくるのもおもしろい。しかし、ゆふいんに残され、受け継がれてきた「風土のかたち」も大切にしていきたい。こうしたかたちの中には、ムラの風景をつくっていくためのヒントや知恵が、まだまだつまっているのではないだろうか…。

【ゆふいんの心象風景にもなっている和風や擬洋風（和洋折衷）のたたずまい】



【昔から残る日本の農家住宅】



【ゆふいんの象徴、下ん湯のたたずまい】



IV. 看板に関するデザインガイド



実際に看板を設置する時のガイドブックの使い方

実際に看板を設置しようとするときの作業の流れを想定しながら、それぞれの段階毎の課題に対して、このガイドブックをどの様に活かしていくかについて考えてみましょう。

ステップ1. 建物、敷地、通り、周辺の状況を確認する

◆由布山はどの方角に見えるだろうか？ →

心得1①：由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく (本文p.56)

◆看板をつける建物はどんな形状、色、素材だろうか？ →

心得1①：由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく (本文p.56)

心得1②：盆地の程良い大きさを大切にし、看板を小さく抑えていく (本文p.57)

心得1③：看板を建物と一体的にデザインし、看板が小さく見えるように工夫していく (本文p.57)

心得3②：場所と大きさを考えた色づかい (本文p.63)

心得3③：風景や建物と調和した素材 (本文p.65)

◆道路・通りとの関係はどうなっているだろうか？ →

心得1②：盆地の程良い大きさを大切にし、看板を小さく抑えていく (本文p.57)

心得2②：まちゆく人や自転車の人の視点を中心に考えていく (本文p.59)

◆庭や店先の空間はどうなっているだろうか？ →

心得2①：段階的な大きさの変化で空間を構成していく (本文p.58)

心得3①：敷地いっぱいに建てずにできた「ひき」のスペースを大切にする (本文p.62)

心得4①：奥を感じさせる看板の付け方 (本文p.66)

◆目印となる樹木はどこにあるだろうか？ →

心得2③：目印となる樹木を尊重する (本文p.60)

◆周辺の建物、看板はどうなっているだろうか？ →

心得1①：由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく (本文p.56)

ステップ2. 看板の設置位置と枚数について考える

◆建物と通りの間に看板をどう配置するか？ →

心得2①：段階的な大きさの変化で空間を構成していく (本文p.58)

心得2②：まちゆく人や自転車の人の視点を中心に考えていく (本文p.59)

心得3①：敷地いっぱいに建てずにできた「ひき」のスペースを大切にする (本文p.62)

心得4①：奥を感じさせる看板のつけ方 (本文p.66)

◆目印となる樹木との関係をどうするのか？ → 心得 2 ③：目印となる樹木を尊重する (本文p.60)

◆まちゆく人への心配りはできているか？ → 心得 2 ②：まちゆく人や自転車の人の視点を中心に考えていく (本文p.59)

ステップ 3. 看板の大きさやデザインについて考える

◆周辺環境、敷地、建物に対して
看板の高さ、大きさはどうか？ → 心得 1 ①：由布山を敬い、眺めを大切にし、
高さを低く抑えていく (本文p.56)

心得 1 ②：盆地の程良い大きさを大切にし、
看板を小さく抑えていく (本文p.57)

心得 1 ③：看板を建物と一体的にデザインし、看
板が小さく見えるように工夫していく (本文p.57)

◆建物や周辺環境にあった色を使っているか？ → 心得 3 ②：場所と大きさを考えた色づかい (本文p.63)

◆建物や周辺環境にあった素材を使っているか？ → 心得 3 ③：風景や建物と調和した素材 (本文p.65)

心得 7 ①：上手く年をとって、周りの風景と
なじんでいく素材を使う (本文p.68)

◆まちゆく人への心配りはできているか？ → 心得 2 ④：表情を豊かにする、細やかな部分
を大切にしていく (本文p.61)

心得 6 ①：暮らしぶりや住み手の気配りを魅
せる (本文p.67)

◆店舗全体でトータルにデザインされているか？ → 心得 1 ②：盆地の程良い大きさを大切にし、
看板を小さく抑えていく (本文p.57)

心得 1 ③：看板を建物と一体的にデザインし、看
板が小さく見えるように工夫していく (本文p.57)

心得 2 ①：段階的な大きさの変化で空間を構
成していく (本文p.58)

心得 3 ④：看板同士のデザインのバランスを
考える (本文p.65)

心得 4 ①：奥を感じさせる看板のつけ方
(本文p.66)

ステップ 4. 看板を追加、やりかえる時には、 常にステップ 1～3 を繰り返し考える

ゆふいんらしい『ムラ』の風景・建物になじんだ看板

盆地の程よい大きさを大切にし、 小振りなつくりとする

■ 大きなものは、ゆふいんの風景には似合わないの
で避けるべきである。大きな看板を設置すること
は、先人達がこれまでに、盆地内の限られた平場
の中で、自然景観を尊重しながら細やかに暮らす
ことで作り出してきた「ゆふいんならではの風
景」のバランスを壊してしまうことである。

① 由布山を敬い、眺めを大切にし、高さを低く抑えていく

改修前



改修後



○ 建物よりも高い看板は立てないことで、由布山への眺めを遮らないようにする。



○ 高さを低く抑えた建物が並ぶ通りでは、その連続したスカイラインを壊さないようにしたい。建物よりも高い看板を立てないことで、印象的な由布山への眺望を守ることができる。

② 盆地の程よい大きさを大切にし、看板を小さく抑えていく



- 大きな看板は、ゆふいんの風景には似合わない。看板は通りの広さや建物のサイズにあった大きさとし、できる限り小さく抑えていく。

③ 看板を建物と一体的にデザインし、看板が小さく見えるように工夫していく



- 比較的大きな看板でも、低く抑えたり、引いて設置することによって、その大きさを和らげることができる。また、建物と調和する色や素材を選ぶことで、建物と一体となって、通りを行く人にメッセージを伝えることができる。



- 屋号を示す看板は大きくなりがちである。周囲に緑を配置することで、その大きさを和らげながら、ゆふいんらしい風合いを持った柔らかな入口をつくることができる。

ひとの尺度を中心に、 細やかな配慮を心がける

- ゆふいんのまちの大きさは、歩く人や自転車に乗った人に、最もなじみやすいであろう。そこに設置する看板は、そうしたひとの視点や尺度を中心に考えられるべきである。
- 単調で均質な空間は面白くない。大きなものばかりだとおおざっぱな印象を受けるし、細かなものばかりだと力強さに欠ける。空間として面白いのは、足元に咲く繊細な草花などの小さなものから、力強い由布山まで、様々な大きさのものが入り交じった、多様性を持った空間である。

① 段階的な大きさの変化で空間を構成していく



- 看板も段階的な空間を構成する要素の一つである。看板を設置する際には、通りに近い空間には大きさも高さも抑えた‘小さな看板’を、その奥の建物に入るまでの空間には軒より低い‘中くらいの看板’を置き、軒上には看板を設置しないことで、建物や植栽によって作り出した段階的な空間構成を守ることができる。



- 生垣や植栽を植えるスペースがない小さな空間でも、‘小さな看板’と‘中くらいの看板’を効果的に配置することで、段階的な大きさの変化を表現することができる。

② まちゆく人や自転車の人の視点を中心に考えていく



- 看板は控えめに設置したい。まちゆく人や自転車の人の目線を考えると、歩行者中心の通りにおいては、軒上での看板の設置は効果的ではない。むしろ看板を軒下に抑えることによって、建物全体をより引き立たせて見せることができる。



- 背の高い建物に看板を設置する場合でも、1階部分の高さを目安に看板の高さを抑えることによって、人の尺度にあわせた空間をつくることができる。

③ 目印となる樹木を尊重する



- T字路の突き当たりやカーブ地点、店先にある目印となる樹木の付近では、看板を設置せずに樹木を見せることが望ましい。もし看板を設置する場合にも、目印となる樹木を尊重して、高さを低く抑えたり、小ぶりの看板としたり、控えめな色を用いるなどの配慮を心がけたい。



④ 表情を豊かにする、細やかな部分を大切にしていく



- 看板に載せる情報は必要最低限に絞込み、シンプルで控えめにつくりながら、看板の素材や色、フォント、植栽等の細やかな部分で工夫することによって、表情豊かな看板をつくり、見る人へ効果的にメッセージを伝えることができる。

周囲との調和を大切にし、 控えめにつくる

- ゆふいんに求められるのは、「わきまえる心配り」を持った看板である。ここでは、小粒できらりと光るセンスを持ちながらも、あくまでも主役は豊かな自然であり、情緒的なムラの風景であることを悟り、自らがでしゃばり過ぎることのないようわきまえる姿勢を、エチケットとして持っていきたい。

① 敷地いっぱいに建てずにできた「ひき」のスペースを大切にする



- 建物をひいて建てたことにより生まれた、憩いの空間、歩行空間を大切にするために、「ひき」のスペースにはなるべく看板を置かないよう心がける。

② 場所と大きさを考えた色づかい



○ 看板は目立てば良いというものではない。派手な色や強すぎる色を使うことで、かえって店の印象を損なうこともある。なるべく控えめに、周囲の風景や建物と調和した色づかいを心がけたい。



- 鮮やかな色を使つてはいけないということではない。きつい色や目立つ色を大きく使うのは問題だが、建物や周囲の風景になじむアクセントカラーを上手に使えば、看板と建物がうまく調和しながらも、看板を引き立たせることができる。

③ 風景や建物と調和した素材



- 看板も店先を演出するための一要素である。建物や周りの風景になじむ素材を使用することで、看板を含めた建物全体で、より魅力的な雰囲気をつくることができる。

④ 看板同士のデザインのバランスを考える



- 看板が複数ある場合には、看板同士のバランスも考えていきたい。
同じ店舗内での看板のデザインでは、色のトーンだけでなく、素材や構成、フォント、ロゴにも統一感をもたせ、周囲との調和を大切にする。

通りに対して 堅く閉ざさないつくり方とする

■ 通りににじみ出し、外から見え隠れする内側の暮らしや営みの気配は、その場ならではの風情を生み出し、まちゆく人にも親近感を覚えさせてくれる。見えそうだけれども見えない、囲われてはいるけれどもちゃんと垣間見られる。そういった内と外の狭間での緊張感のある駆け引きが、期待感をそそる魅力的な場をつくり出していく。

① 奥を感じさせる看板のつけ方



○ 通りとの境界部分や、建物までの入口空間がしっかりつくり込まれ、奥を感じさせる空間構成がすでにできている場合には、看板がその空間にうまくなじんでいく配置や色、素材を考えていきたい。



○ 店先のスペースが小さく、奥を感じさせる空間をつくれなくても、大きく張り出したひさしや、中を垣間見ることができるガラス素材などをうまく用いることによって、奥が感じられる空間をつくりだすことができる。

まちゆく人をもてなす空間を、 あちこちに用意しておく

■ 通りににじみ出てくる「住み手のこだわり空間」や「暮らしぶり」は、そこに暮らす人達の「心の豊かさ」や「気持ちの余裕」の現れであり、それらを目にした人達は、益々ゆふいんに魅せられていくだろう。

① 暮らしぶりや住み手の気配りを魅せる



○ 見る人を楽しませるような洒落のきいたデザインや、手作り感溢れるデザインの看板は、住み手の人柄を現し、まちゆく人に伝えることができる。

ゆふいん固有の 素材感や風合いを大切にする

- ゆふいんの風景の中で最も印象的に感じられるのは、「素材が持つ風合いを上手く引き出す使い方の巧みさ」であろう。石や土、木や竹といった、風土に合った天然素材を上手く使いこなすことで、ゆふいんならではの「自然で柔らかで、軽やかな風合い」が作り出されているのである。
- こうした天然の素材は、日々の暮らしの中で上手く年をとることができる素材であるため、長い年月の経過を通じて、周りの風景となじんでいくことができるのである。

① 上手く年をとって、周りの風景となじんでいく素材を使う



- 石や土、竹や木材などの天然素材を使うことにより、ゆふいんらしい風合いを作り出すことができる。天然素材を用いた看板は、時間の経過とともに風化していきながら、落ち着いた表情や質感を醸し出していき、風景に馴染んでいく。

『ムラ』の風景をつくる

～農村文化に支えられる、いやしの里の豊かな暮らしの風景～

ゆふいん建築・環境デザインガイドブック

増補改訂版

2011年3月

発	行	ゆふいん建築・環境デザイン協議会 由布市
事	務	局
		由布院観光総合事務所 〒879-5102 大分県由布市湯布院町川上2863 TEL 0977-85-4464 FAX 0977-85-4465